

自分の役割が分かり意欲を高められる係活動の工夫

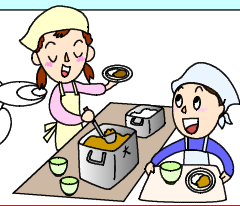
—実態差が大きいクラスの給食準備を通して—

特別支援教育班 青柳 太（特別支援学校教諭）



一人一人が
ばらばらの活動になっていて
まとまらないな。

早くおわりに
したいな。



主題設定の理由

特別支援学校では、クラス内での生徒の能力差が大きく、障害の軽い生徒が障害が重い生徒の活動を担ってしまいがちで、個々が別々の活動になりやすい。しかし、障害が重い生徒も十分に係活動を行い友達とかかわり合いながら活動を行うことでお互いを認め合い、自分の役割を実感し、活動することへの意欲を高められると考えた。

その方法として

係活動の難易度表
(知識・技能編)

+

係活動の難易度表
(友達との関わり・
役割編)

→

生徒の実態や特性の把握
係活動の設定
生徒の組み合わせ

係活動の
工夫

その結果として

自分の役割を感じることができる。
活動への意欲を高めることができる。

将来は・・・

自立や社会参加の礎となる。

実践を行い、係活動の難易度表の改良をしました。



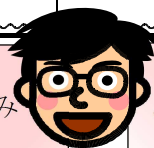
係活動のマトリックス表（給食の準備編）抜粋



難易度		難	易	グレードC	グレードB	グレードA
難 易 度	役割・協力のしかた	・友達を手伝うことができる。 ・自分で気付いて行動できる。 ・友達のペースに合わせて、活動できる。	・一部分手伝ってもらい活動ができる。 ・与えられた活動に一人で取り組むことができる。	・友達や教師と一緒に活動できる。	・台の汚れを指摘されて、台ふきで拭くことができる。 ・ビニールテープを目印にして、自分の机を正しい位置に移動ができる。	・友達や教師に動きを誘導されて、一緒に机を動かすことができる。
	技術・知識					
レベル3	・経験や知識を基に判断したり、調整や工夫をしたりできること。	・誰も取り組んでいないが、必要な活動に自分で気付いて、行動できる。 ・盛り付けの後に台の汚れに気付き、台ふきなどできれいにできる。 ・机の正しい位置や、向きを調整して配置できる。 ・友達の動きに合わせてながら、友達を手伝い、机の移動ができる。	・1つのトレーには、1つの牛乳やパンを置き、過不足なく配ることができる。 ・牛乳やパンをカゴに入れて、教室まで一人で持ってくる事ができる。	・トレーの上に置いてある写真カードを目印にして牛乳やパンを配ることができる。 ・カゴに入っている牛乳やパンを、友達や教師と一緒に教室まで、持ってくる事ができる。		
レベル1	・活動や物を意識できること。 ・1対1対応が分かること。	・カゴを持つなど、友達を手伝い、友達のペースに合わせて牛乳やパン配りを手伝うことができる。 ・手を添えたり、一緒にカゴを持ったりして牛乳運びを手伝うことができる。				

成果

- ・実態に応じた役割が設定しやすくなり、生徒の組み合わせと、係分担を考えやすくなった。
- ・友達と活動することで、自分の役割や友達とかかわり合う楽しさを感じ、活動への意欲を高められた。
- ・教師の指示が減り、生徒同士で活動できることが増えた。



課題

- ・マトリックス表は、これからもクラスの実態によって項目を補完していく必要がある。
- ・友達とかかわり合いながら活動をする際は、生徒の組み合わせや生徒同士の相性を考慮する必要がある。